岐阜県・愛知県・兵庫県・岡山県・広島県・徳島県の 茶粥習俗の分布

早川史子*・岡崎章子*・猪口智子*・鷺見孝子**・韓 順子***

(*滋賀県立大学人間文化学部, **東海女子短期大学, ***東海学園大学人間健康学部)

Distribution of the custom of rice porridge in green tea in Gifu, Aichi, Hyogo, Okayama, Hiroshima, and Tokushima prefectures

Fumiko Hayakawa*, Akiko Okazaki*, Tomoko Inokuchi*,
Takako Sumi**, Soon-ja Han***

*University Shiga Prefecture, 2500, Hassaka-cho, Hikone-shi, Shiga, 522-8533

**Tokai Women's Junior College, 2-43, Nakakirino-cho, Kagamihara-shi, Gifu, 504-8504

***Tokai Gakuen University, Faculty of Human Wellness, 2-901, Nakahira,
Tenpaku-ku, Nagoya-shi, 468-8514

*〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

**〒504-8504 岐阜県各務原市那加桐野町 2-43

***〒468-8514 愛知県名古屋市天白区中平 2-901

A survey was conducted with people aged 50 or older on the custom and literature of green tea rice porridge in Gifu, Aichi, Hyogo, Okayama, Hiroshima, and Tokushima prefectures from 2003 to 2005. A literature survey was also conducted on the custom. The surveys found the following:

- (1) The custom of green tea rice porridge was not found either in Gifu prefecture. Also, it was seldom found popular in Aichi, Hyogo, Okayama, Hiroshima, or Tokushima prefecture.
- (2) Rice porridge with green tea was had for breakfast. Sweet potatoes were very popular ingredients in rice porridge with green tea. This custom was also observed Wakayama, Nara, Osaka, Kyoto, Shiga, Mie, Saga, Shimane and Yamaguchi prefectures.
- (3) A common name for rice porridge with green tea was “Chagai” or “Chagayu” whose frequency of use was the highest in all prefectures surveyed. This similar tendency was observed in Osaka, Kyoto, Shiga, Mie, Shimane and Yamaguchi prefectures.

1. 緒 言

著者ら^{1)~4)}は、茶粥習俗を総合的にとらえ、長く食べられてきた日本の食文化のひとつである茶粥を通して、食文化の成立、伝播、定着、衰退の過程とそれらの要因を明らかにするために、これまで和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県、島根県および山口県における茶粥習俗調査を実施してきた。その結果、これらの地域における茶粥習俗の内容には共通点が多く、

どの地域も節米目的で食べられてきたという意識は強く、茶粥のおいしさや茶粥が健康にもよいという理由から今日まで食べられてきたことが明らかとなった。

しかし、茶粥習俗の伝播経路を推測し、なぜ茶粥習俗が定着したのかを明らかにするためには調査地域をさらに拡大して調査を実施し、その結果と文献調査の結果を組み合わせることによって茶粥習俗の全体像を把握する必要がある。

そこで、本論文では茶粥が盛んに食べられてきたこと

を明らかにしてきた地域の周辺地域である岐阜県、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県における茶粥習俗の有無およびその特徴を調べた。

2. 調査方法

(1) 調査対象

岐阜県、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県に在住しており、老人福祉施設の利用者、老人クラブなどにアンケートの協力を依頼し、了解が得られた施設にアンケート用紙を送付して、記入後、返信してもらった。回収率は100%であった。

(2) 調査時期

岐阜県：2003年12月～2004年1月
愛知県：2003年10月～2004年1月
兵庫県・岡山県・広島県・徳島県：2005年10月～2006年1月

(3) 調査内容

調査内容は前報⁴⁾に準じた。

愛知県および岐阜県については茶粥に関する聞き取り調査を実施した。

(4) 統計処理

単純集計は、Microsoft Excelを用いて行った。単一回答については度数と比率を示し、複数回答については、

選択肢別にその選択肢が選ばれたか選ばなかったかの比率（以後、選択率とする）を示した。また、集計値の有意差は統計解析アドインソフト「エクセル統計2000 for Windows」(SSRI)を用い、二項検定、 χ^2 検定で解析し、有意水準は5%とした。

3. 調査結果

(1) 対象者の年齢階層別比率

対象者数と年齢階層別比率を表1に示した。

岐阜県では50歳代が約46.6%、徳島県では80歳代が78.3%を占めていた。また、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県では70歳代と80歳代の合計が約70%を占めていた。

(2) 岐阜県、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県の茶粥を食べる習慣の特徴

1) 茶粥を食べる習慣の有無

表2に調査地域における茶粥を食べる習慣の有無を示した。茶粥を習慣的に「食べたことがある」者と現在も「食べている」者をあわせて、「茶粥を食べる習慣がある」者とした。

岐阜県、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県では「茶粥を食べる習慣がある」者の割合は「茶粥を食べる習慣がない」者の割合に比べて有意に低かった（それぞれ $p < 0.01$ ）。徳島県では「茶粥を食べる習慣がある」者の割

表1 対象者数と年齢階層別比率

	対象者数 (人)	年齢階層別比率 (%)				
		50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明
岐阜県	247	46.6	27.5	17.6	1.1	7.3
愛知県	291	2.6	10.8	30.9	42.0	13.7
兵庫県	310	6.5	17.1	34.5	36.8	5.2
岡山県	323	6.5	9.3	25.7	51.7	6.8
広島県	233	4.7	12.4	28.3	50.6	3.9
徳島県	23	8.7	0.0	4.3	78.3	8.7

表2 茶粥を食べる習慣の有無

	習慣あり			人数 (%)
	かつて習慣として 食べたことがある	現在も習慣として 食べている	習慣なし	
岐阜県 (n=247)	5 (2.0)	3 (1.2)	239 (96.8)	**
愛知県 (n=291)	35 (12.0)	7 (2.4)	249 (85.6)	**
兵庫県 (n=310)	60 (19.4)	21 (6.7)	229 (73.9)	**
岡山県 (n=323)	33 (10.2)	7 (2.2)	283 (87.6)	**
広島県 (n=233)	41 (17.6)	10 (4.3)	182 (78.1)	**
徳島県 (n=23)	8 (34.8)	0 (0.0)	15 (65.2)	

** $p < 0.01$

表3 茶粥を食べる時間帯

	朝食	10時	昼食	15時	夕食	その他
岐阜県	50.0	0.0*	20.0	0.0*	0.0*	30.0
愛知県	47.8	0.0**	19.4**	1.5**	20.9**	10.4**
兵庫県	49.5	0.0**	22.0**	3.3**	18.7**	6.6**
岡山県	43.5	2.2**	21.7*	4.3**	13.0**	15.2**
広島県	47.9	0.0**	10.4**	2.0**	18.8**	20.8*
徳島県	60.0	0.0**	10.0*	10.0*	0.0**	20.0

**「朝食」に比べて有意差あり (p<0.01)

*「朝食」に比べて有意差あり (p<0.05)

食事時間帯

表4 茶の種類

	今も昔も番茶	今：番茶 昔：カワラケツメイ	今：カワラケツメイ 昔：番茶	今も昔もカワラケツメイ	今：ハブ茶 昔：番茶	今：番茶 昔：ハブ茶	今も昔もハブ茶	その他
岐阜県	88.9	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	11.1**
愛知県	65.5	9.1**	5.5**	0.0**	3.6**	5.5**	0.0**	10.9**
兵庫県	75.3	8.2**	0.0**	0.0**	1.4**	0.0**	2.7**	12.3**
岡山県	58.3	2.8**	0.0**	2.8**	2.8**	0.0**	5.6**	27.8*
広島県	71.7	2.2**	0.0**	0.0**	8.7**	0.0**	0.0**	17.4**
徳島県	100.0	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**

**「今も昔も番茶」に比べて有意差あり (p<0.01)

*「今も昔も番茶」に比べて有意差あり (p<0.05)

合と「茶粥を食べる習慣がない」者の割合との間に有意差が認められなかった。

愛知県では、「茶粥を食べる習慣がある」者は名古屋市で13人、その他の市町村では各1—2人であった。愛知県の中で茶粥を食べる習慣が最も多かった名古屋市で聞き取り調査を行ったところ茶粥習俗のある近畿地方からの移動によるものであった。

海部郡蟹江町の聞き取り調査からは蟹江町では古くから茶粥を食べる習慣があったことが確認できた。

兵庫県では「茶粥を食べる習慣がある」者は81人(26.1%)であり、内訳は尼崎市(28人)、神戸市(14人)、西宮市(13人)、丹波市(6人)、姫路市(4人)、伊丹市(4人)、その他であった。

岡山県で「茶粥を食べる習慣がある」者は40人(12.4%)であり、岡山市(12人)、倉敷市(9人)、苫田市(3人)、その他であった。

広島県では「茶粥を食べる習慣がある」者が51人(21.9%)であり、内訳は福山市(16人)、広島市(8人)、呉市(7人)、三次市(6人)、安芸高田市(3人)、その他であった。

徳島県では調査対象者が少なく、また「茶粥を食べる習慣がある」者は徳島県東部の阿南市に限られていた。

調査地域の茶粥を食べる習慣がある地域の分布図を図1に示した。

2) 茶粥を食べる時間帯

茶粥を食べる時間帯を表3に示した。愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県では茶粥は朝食においてよく食

べられ、昼食あるいは夕食との間に有意差が認められた。岐阜県では朝食と昼食の間には有意差は認められなかったが、夕食ではまったく食べられておらず朝食との間に有意差が認められた。

3) 茶の種類

茶粥に用いる茶の種類を表4に示した。いずれの地域も番茶の使用頻度が最も高く、番茶以外ではカワラケツメイやハブ茶が使用されていたが、これらの使用頻度は少なかった。

4) 塩を入れる習慣の有無

茶粥に塩を「入れる」習慣の有無の結果を表5に示した。塩を「入れる」が「入れない」よりも有意に多かった地域は愛知県、岡山県、広島県(いずれもp<0.01)、兵庫県(p<0.05)であった。岐阜県では有意差が認められなかった。

表5 塩を入れる習慣の有無

	入れる	入れない
岐阜県	60.0	40.0
愛知県	69.6**	30.4
兵庫県	65.3*	34.7
岡山県	81.1**	18.9
広島県	79.6**	20.4
徳島県	87.5	12.5

**「入れない」に比べて有意差あり (p<0.01)

*「入れない」に比べて有意差あり (p<0.05)

5) 茶粥を食べる理由

茶粥を食べる理由を表6に示した。

表6 茶粥を食べる理由

		(%)					
	積極的理由	消極的理由	積極的理由			消極的理由	その他
			おいしい	からだによい	好き	習慣	
岐阜県	72.7	18.2	18.2	45.5	9.1	18.2	9.1
愛知県	69.9**	21.7	19.3	33.7	16.9	21.7	8.4
兵庫県	69.9**	22.9	25.3	30.1	14.5	22.9	7.2**
岡山県	75.0**	6.3	20.8	43.8*	10.4	6.3	18.8
広島県	54.9**	19.6	17.6	35.3	2.0*	19.6	25.5
徳島県	87.5*	12.5	0.0	50.0	37.5	12.5	0.0
**「消極的理由」に比べて有意差あり (p < 0.01)			**「おいしい」に比べて有意差あり (p < 0.01)				
*「消極的理由」に比べて有意差あり (p < 0.05)			*「おいしい」に比べて有意差あり (p < 0.05)				

表7 茶粥の呼び名(複数回答)

		(%)							
	チャガユ	チャガイ	オカイサン	オカユサン	チャガエ	アサジャ	アサチャ	コメジャ	その他
岐阜県	81.8	0.0**	9.1**	9.1**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**
愛知県	64.2	4.5**	1.5**	0.0**	0.0**	16.4**	12.0**	0.0**	1.5**
兵庫県	69.0	6.0**	15.5**	4.8**	2.4**	0.0**	0.0**	0.0**	2.4**
岡山県	75.6	4.9*	4.9**	12.2**	0.0**	2.4**	0.0**	0.0**	0.0**
広島県	74.5	3.9**	11.8**	3.9**	0.0**	2.0**	0.0**	2.0**	2.0**
徳島県	72.7	0**	9.1**	9.1**	0.0**	9.1**	0.0**	0.0**	0.0**

**「チャガユ」に比べて有意差あり (p < 0.01)

*「チャガユ」に比べて有意差あり (p < 0.05)

岡山県では「からだによい」を理由にする者の割合が多く、「おいしい」を理由にあげる者の割合よりも有意に高かった (p < 0.05)。これら以外の地域では有意差が認められなかったが、いずれの地域も「からだによい」を理由にあげる者の割合が他の理由に比べて高い傾向にあった。愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県では茶粥を食べる理由として積極的な理由を回答した割合の方が消極的な理由を回答した割合よりも有意に高かった (愛知県、兵庫県、岡山県、広島県: p < 0.01, 徳島県: p < 0.05)。岐阜県においては有意差はみられなかったものの、積極的な理由を回答した割合の方が消極的な理由を回答した割合より多い傾向を示した。

6) 茶粥の呼び名

茶粥の呼び名の結果を表7に示した。いずれの地域も「チャガユ」が最も多く用いられており、その他の呼び名との間に有意差が認められた。

7) ツケゴハンの習慣の有無

ツケゴハンの習慣の有無の結果を表8に示した。愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県ではツケゴハンの習慣が「ない」と答えた者の割合が「ある」と答えた者の割合よりも有意に高かった (愛知県、広島県、徳島県: p < 0.01, 兵庫県、岡山県: p < 0.05)。岐阜県では有意差は認められなかったが「ない」と答えた者の割合の方が「ある」と答えた者の割合より多い傾向にあった。

8) 茶粥に具を入れる習慣および具の種類

表8 ツケゴハンの習慣の有無

		(%)	
		習慣あり	習慣なし
岐阜県		30.0	70.0
愛知県		23.2**	76.8
兵庫県		36.5*	63.5
岡山県		31.6*	68.4
広島県		25.0**	75.0
徳島県		0.0**	100.0

**「習慣なし」に比べて有意差あり (p < 0.01)

*「習慣なし」に比べて有意差あり (p < 0.05)

茶粥に「具を入れる」習慣の有無の結果を表9-1に示した。いずれの地域においても茶粥に「具を入れる」習慣の有無の間に有意差が認められなかった。

茶粥に「具を入れる」場合の具材の種類を表9-2に示した。愛知県、兵庫県、岡山県、広島県では「サツマイモ」の使用頻度が最も高く、他の具材との間に有意差が認められた。「サツマイモ」に次いで比較的多く用いられていた具材は愛知県、兵庫県、岡山県では「モチ」、広島県では「モチ」であった。対象者数の少なかった岐阜県では「サツマイモ」の使用頻度と他の具材との間に有意差が認められなかった。

9) 茶粥を作るために用いる道具

茶粥を作るために用いる道具の種類と茶袋の使用頻度の結果をそれぞれ表10-1と10-2に示した。

「土鍋」の使用頻度がいずれの道具に比べて有意に高

表9-1 茶粥に具を入れる習慣の有無 (%)

	習慣あり	習慣なし
岐阜県	50.0	50.0
愛知県	44.8	55.2
兵庫県	55.3	44.7
岡山県	52.6	47.4
広島県	53.1	46.9
徳島県	28.6	71.4

**「習慣なし」に比べて有意差あり (p<0.01)

表9-2 茶粥に入れる具の種類 (%)

	サツマイモ	モチ	ソラマメ	アズキ	サトイモ	ダイズ	クロマメ	カキモチ	コンブ	ササゲ	ショウガ	ミカンノカワ	その他
岐阜県	30.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	20.0
愛知県	32.8	14.8**	1.6**	14.8**	9.8**	3.3**	4.9**	4.9**	4.9**	1.6**	1.6**	0.0**	4.9**
兵庫県	48.6	9.7**	2.8**	9.7**	1.4**	4.2**	5.6**	6.9**	8.3**	0.0**	1.4**	0.0**	1.4**
岡山県	38.1	16.7*	2.4**	14.3*	4.8**	7.1**	2.4**	0.0**	2.4**	2.4**	2.4**	0.0**	7.1**
広島県	64.9	10.8**	0.0**	2.7**	0.0**	0.0**	0.0**	0.0**	2.7**	2.7**	2.7**	2.7**	10.8**
徳島県	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7

**「サツマイモ」に比べて有意差あり (p<0.01)

*「サツマイモ」に比べて有意差あり (p<0.05)

表10-1 茶粥を作るために用いる道具 (%)

	土鍋	鉄鍋	羽釜	茶釜	その他
岐阜県	80.0	10.0**	0.0**	0.0**	10.0**
愛知県	55.7	21.3**	4.9**	11.5**	6.6**
兵庫県	45.9	31.1	6.8**	5.4**	10.8**
岡山県	44.7	15.8*	15.8*	2.6**	21.1
広島県	34.0	28.0	24.0	8.0**	6.0**
徳島県	75.0	12.5*	0.0**	0.0**	12.5*

**「土鍋」に比べて有意差あり (p<0.01)

*「土鍋」に比べて有意差あり (p<0.05)

表10-2 茶袋の使用 (%)

	使う	使わない
岐阜県	33.3	66.7
愛知県	22.7**	77.3
兵庫県	81.8**	18.2
岡山県	56.7	43.3
広島県	58.3	41.7
徳島県	66.7	33.3

**「使わない」に比べて有意差あり (p<0.01)

かったのは岐阜県、愛知県、岡山県、徳島県であった。

茶袋を「使う」と答えた者の割合の方が「使わない」よりも有意に高かった地域は兵庫県 (p<0.01) であった。愛知県では「使わない」と答えた者の割合が「使う」と答えた者の割合よりも有意に高かった (p<0.01)。岐阜県、岡山県、広島県および徳島県では有意差が認められなかった。

10) 茶粥に対する意識

茶粥が節米目的で食べられようになった、と思うかどうかの質問に対する回答の結果を表11に示した。岡山県では「思わない」と答えた者の割合の方が「思う」と答えた者の割合よりも有意に高かった (p<0.01)。

岡山県以外の地域では「思う」と「思わない」の間に有

表11 茶粥に対する意識 (%)

	茶粥は節米目的に食べられたと		
	思う	思わない	わからない
岐阜県	30.0	50.0	20.0
愛知県	35.2	38.9	25.9
兵庫県	37.0	39.7	23.3
岡山県	17.9*	48.7	33.3
広島県	54.1	32.4	13.5
徳島県	37.5	50.0	12.5

*「思わない」に比べて有意差あり (p<0.05)

意差が認められなかった。

4. 考 察

岐阜県では茶粥を食べる習慣が他県に比べて希薄であり、徳島県における茶粥を食べる習慣は他県に比べて高い傾向にあった。これにはアンケート回答者の年齢階層において岐阜県では50歳代の占める割合が高く、徳島県では80歳代の割合が他県に比べて高かったことも影響しているかもしれない。

図1に文献から明らかにした茶粥習俗の分布を今回の調査結果とともに示した。

岐阜県では対象者の96.8%が茶粥を食べたことがないと回答したことや文献^{5),6)}からも茶粥習俗の存在が確認できなかったことから、茶粥習俗がなかったと判断してもよいと思われる。岐阜県の茶粥の呼び名にオカイサンが用いられていたこと、ツケゴハンの習慣があること、サツマイモ、モチ、ショウガを入れることなどにおいて和歌山県や奈良県との共通点が見られたことから、岐阜県で見られた茶粥習俗はこれらの地域からの移動によって食べられているものと思われる。また著者らは愛知県蟹江町^{7),8)}のように茶粥習俗の伝播のひとつとして漁師による海を介しての経路を推論したが、岐阜県では海に面していないことが茶粥習俗の伝来につながらなかった原因のひとつかもしれない。

愛知県での茶粥習俗を文献から検討してみる。大正10年の主食調査の結果によると、愛知県の郡部では茶粥は食べられていなかったが、都市部の一部で食べられていた⁶⁾とされている。今回の調査では都市部における茶粥習俗の存在は認められなかったが、逆に郡部である海部郡蟹江町で確認できた。アンケートに回答した蟹江町の人々は7人全員が茶粥を「現在も食べている」と回答していた。このことから愛知県における茶粥習俗は、現在では蟹江町に限られているものと思われる。蟹江町は木曽川下流域のデルタ地帯に位置し、町全域が海拔0メートルの低湿地に属している。文献^{7),8)}によると蟹江町の茶粥は、主に蟹江町の中央部から蟹江川下流域にかけて食されており、特に舟入地区では盛んに食べられていたが、それ以外の地域では茶粥を食べる習慣はみられなかった。蟹江町の名物を歌った歌の中に「蟹江名物コメジャにコーコ」⁷⁾とあり、コメジャとは茶粥のことであるとされている。しかし今回の調査では茶粥を「コメジャ」と呼ぶ者はいなかった。また、蟹江町の茶粥の特色は番茶ではなく、カワラケツメイを使用することであった。蟹江町におけるカワラケツメイの使用頻度は島根県⁴⁾や山口県⁴⁾のそれよりも高かった。2003年10月、蟹江町において聞き取り調査を行ったところ、蟹江町では茶の木が自生していなかったことから、茶は高級品であり、昔はどの家庭でも庭にカワラケツメイを栽培して飲んで

図1 茶粥習俗分布図

いたということであった。蟹江町舟入は和歌山県の漁師との交流が盛んに行われていた港であったとされている^{6),7)}。また、今回の調査結果から蟹江町では茶粥は朝食で多く食べられていたこと、茶粥に入れる具材にはサツマイモ、モチ、アズキの使用頻度が高かったこと、など和歌山県の茶粥習俗と共通点がみられた。これらのことから、蟹江町の茶粥習俗もまた和歌山県の漁師から伝来したものと推測された。

兵庫県では尼崎市、神戸市、西宮市などの都市部で茶粥習俗がみられたが少数（回答者のそれぞれ9.0%、4.5%、4.2%）であり、文献からもこれらの地域の茶粥習俗の存在は確認できなかった。兵庫県では茶粥を食べる時間帯が朝食で最も高かったことや茶粥に入れる具材としてはサツマイモ、モチ、アズキが上位を占めていたことは和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、三重県とも共通するものであった。塩を入れないことは和歌山県と大阪府に共通していた。また、チャガユという呼び名が最も多く使われていたことは大阪府、京都府、佐賀県と共通していた。茶粥を作る時の道具として鉄鍋がよく用いられていた兵庫県の茶粥習俗は、茶粥を食べる時間帯、茶粥に入れる具材、塩を入れないこと、呼び名、茶粥を作る時の道具において大阪府との共通点が多くみられた。また、兵庫県は大阪府に隣接していることから兵庫県の茶粥習俗は大阪府から伝来したのかもしれない。

岡山県では備前南部地方⁹⁾（玉野市東児地区、西大寺地区（現在、岡山市）、雄神地区⁹⁾（現在、岡山市）、都留岐字大藤中吉永町^{10),11)}（現在、備前市）、牛窓町¹²⁾（現在、瀬戸内市）で朝食に茶粥が食べられていたことが知られている。木綿袋の茶袋に番茶を入れて、羽釜で煮出し、そこに洗った米を入れて焚く。炒ったソラマメ、アズキ、ササゲ、サツマイモなどのいずれかを入れることもあったとされている¹²⁾。今回の調査でも岡山県では茶粥が最も多く食べられていたのは朝食であり、和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県、島根県および山口県と共通していた。呼び名としてチャガユがもっとも多く用いられていたことは大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県および山口県と共通していた。塩を入れる習慣が強かったがこれは島根県と共通していた。このように岡山県の茶粥習俗にはこれまでの調査地域、特に近畿地方との共通点がみられた。

本研究の結果においても広島県の茶粥習俗はすでに茶粥習俗があることが確認されている瀬戸内海の島々と島根県に隣接した一部の地域（広島市南区向洋大原¹³⁾、蒲刈町¹⁴⁾、山県郡芸北町大原¹⁵⁾、廿日市町後畑地区¹⁶⁾）に限られていた。広島県では茶粥が最も多く食べられていたのは朝食であることや茶粥の具材にサツマイモとモチを入れることは和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県、島根県および山口県と共通していた。呼び名としてチャガユがもっとも多く用いられていたことは大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県

および山口県と共通していた。

徳島県では阿南市においてのみ茶粥習俗が存在した。この地域では茶粥に具材を入れる習慣は少なく、具材についてもこれまでのすべての調査地で最も多く入れられていたサツマイモを入れる習慣はなく、他県^{1~4)}ではあまり用いられてこなかったサトイモの使用頻度が高かったのが徳島県の特徴であった。ただ、共通点としては茶粥の呼び名として和歌山県や奈良県で使われている「チャガユ」がもっとも多く用いられていた。

著者らは鬼頭¹⁷⁾の報告を用いて、本研究およびこれまで明らかにしてきた茶粥習俗の分布地域が鬼頭の分類のどの主食パターンに属するのかを検討すると共に茶粥が食べられ始めた時期を推測した。

兵庫県の中で茶粥習俗がみられた地域は京都府や大阪府の中で茶粥習俗のある地域に隣接していた。兵庫県は和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、島根県（隠岐の島）、山口県、佐賀県同様にコメ・ムギ型（米食率70%未満、麦食率20%未満、雑穀食率20%未満）の地域であった。著者ら⁴⁾はコメ・ムギ型の地域では、茶粥が江戸時代から食べられていたことを推測してきた。したがって兵庫県の茶粥習俗もこの時代から食べ始められたのかもしれない。広島県で茶粥習俗がみられた地域は、島根県で茶粥習俗がみられた地域に隣接していた。広島県の一部（茶粥習俗がみられた地域）は島根県（隠岐の島を除く）と同様総合型（米食率30—60%、麦食率20—50%、雑穀食率20—50%）（コメ優位）に属していた。岐阜県、愛知県の一部（茶粥習俗がみられた地域）、岡山県の一部（茶粥習俗がみられた地域）、徳島県はムギ卓越型（麦食率50%以上）に属していた。岐阜県、愛知県および西近畿以西の瀬戸内海沿岸地域は麦食率が高く50%以上を占め、米食率の低い地域であるとされている¹⁷⁾。ムギ卓越型地域に属する香川県高見島や佐柳島¹⁸⁾ではコメはひと粒もとれず、島で収穫できるものはムギ・イモ・トウモロコシ・ササゲ・ダイズであり、これらが主食であった。これらの地域では大正から昭和のはじめにかけて多度津町から米麦を購入し、主食が米麦の混食になった。その頃から朝は茶粥を食べるようになったとされている。したがって愛知県、岐阜県、岡山県、徳島県のようなムギ卓越型地域で茶粥が食べられるようになったのは昭和になってからと推測される。

今回の調査地域は茶粥習俗の希薄な地域であった。しかし、茶粥を食べる時間帯、茶の種類、茶粥の呼び名に他府県^{1~4)}との共通点が多く見られた。また、これらの地域で茶粥を食べ始めるようになった時期には地理的要因や主食パターンの違いが関与していることが推測された。

今後、北前船の寄港地であった鳥取県、香川県、新潟県、青森県野辺地および北海道の松前、小樽、釧路、根室などの茶粥習俗を調べることによって北前船と茶粥習俗のかかわりや、いまだ明らかにされていない岡山県へ

の茶粥習俗の伝播などを解明する必要がある。

5. 結 論

2003年から2005年にかけて岐阜県、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、および徳島県における50歳以上の人を対象とした茶粥習俗調査および茶粥に関する文献調査を行い、次のことを明らかにした。

(1) 岐阜県では茶粥習俗はほとんど認められなかった。また、愛知県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県における茶粥習俗は希薄であった

(2) 茶粥が朝食で最もよく食べられたこと、具材としてサツマイモが最も多く用いられたことなど、和歌山県、奈良県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県、島根県および山口県と共通していた。

(3) 茶粥の呼び名としてチャガユ・チャガイが最も多く用いられていたことは大阪府、京都府、滋賀県、三重県、佐賀県、島根県および山口県と共通していた。

文 献

- 1) 早川史子・前田昭子・南幸・川井孝子・藤沢祥子：京都・大阪・三重・奈良・和歌山の茶粥習俗と分布，日本食生活学会誌，11-3，259-267（2000）
- 2) 早川史子・日比喜子：滋賀の茶粥習俗と分布，日本食生活学会誌，9.52-57（1988）
- 3) 早川史子・前田昭子・水野浄子・南幸・渋谷里美：佐賀の茶粥習俗，日本食生活学会誌，12-2，176-182（2001）
- 4) 早川史子・岡崎章子・猪口智子・韓順子：日本食生活学会誌，19-1，（2008）
- 5) 瀬川清子：食生活の歴史，東京書房，p19-23（1982）
- 6) 日本食生活全集編集委員会：山口の食事，農山漁村文化協会，（1990）
- 7) 中村洋一郎：番茶と日本人，吉川弘文堂，p59-63（1998）
- 8) 蟹江町史編集委員会：蟹江町史，蟹江町，p421（1973）
- 9) 鶴藤鹿忠：岡山文庫75 岡山の食習俗，日本文教出版，35（1977）
- 10) 吉永町史刊行委員会：吉永町史 民俗編，吉永町，207（1984）
- 11) 岡山県：岡山県の食生活，34（1961）
- 12) 牛窓町史編集委員会：牛窓町史 民俗編，牛窓町，49（1994）
- 13) 上田三亀男：広島歳の歳時習俗と食事，広島地域文化研究所，171（1997）
- 14) 蒲刈町教育委員会編集：蒲刈町誌 民俗編，83（1995）
- 15) 日本の食生活全集 広島編集委員会：日本の食生活全集 34 聞き書き広島の食事，253（1987）
- 16) 廿日市市編集委員会：廿日市町史通史編（下），廿日市市，725-726（1988）
- 17) 鬼頭宏：明治前期の主食構成とその地域パターン，上智経済論集，30-43（1986）
- 18) 片岡英三：多度津町史，臨川書店，875（1963）